

すこやか1組（知的障がい特別支援学級）算数科学習指導案

日時 10月15日（金）第5校時
場所 すこやか1組教室
授業者 T1：河村美也子
T2：竹中 八富

1 単元名 整理のしかた

2 指導の立場

本単元の構成と「学習指導要領」との関連は、次のようである。

D 数量関係

- (2) ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができる。(第1学年)
(3) 身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。(第2学年)
(3) 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。(第3学年)
ア 棒グラフの読み方やかき方について知ること。

1年生2名、4年・5年各1名ずつの計4名の知的障がいの特別支援学級である。1年から5年と学年の開きが大きいため、4名同時に授業を行うのは大変難しい。1年のOMは、1対1対応で5までなら数えることができる。KMは、20までの数の認識やたし算・ひき算の計算はできる。4年のHY・5年のMHは、4桁までのたし算・ひき算や2桁×1桁のかけ算の筆算はできる。しかし、算数で学習したことを実際の生活の中では十分生かすことができず、戸惑ったり支援が必要であったりすることがある。

本単元では、もれや重なりがないよう数を正確に数え分類整理して、表やグラフに表したり、それらを読んだりする活動を行う。これらの活動を通して、表やグラフの便利さを体感し、生活単元や他領域、実際の生活の場面等で活用させていきたい。

3 研究内容にかかわって

自らの考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成
～算数科における一人一人が輝く授業を目指して～

(1) 一人一人が学びたい考えたいと主体的にとらえる導入

① 掲示や既習内容の活用

- ・前時まとめた表を提示し、絵と表の子どもの数を一致させる。
- ・長さくらべで用いたテープ図を提示し、グラフの用語と意味を知らせる。

② 五感に訴える教材教具の活用

- ・パソコンで公園の遊具を一つずつ提示し、数える対象を分かりやすくする。
- ・ぶらんこで遊んでいる子どもを例にとり、パソコンでグラフのかき方を丁寧に示していく。

(2) 自ら考え、自ら問題解決する個人追究のあり方

① 個に応じた指導・援助

- ・○がかけない児童（OM）については、○の代わりにシールを準備し、マスの中にシールを貼るよう支援する。
- ・1年のKMは、○をかく場所の支援を受けながら自力でグラフをかく。そして、できたグラフから、多いものや少ないものを読み取るようにする。
- ・4年のHYと5年のMHは自力でグラフを完成させ、グラフから分かることを発表する。

(3) 確かな課題解決に向けた交流のあり方

① 操作・図・言葉でつなぐ話し合い

- ・実物投影機を使って、自分がかいたグラフを写しながら、発表させる。

② ねらいに迫るための交流のあり方

- ・グラフの便利さやよさを感じ取らせるために、多い少ない、順序、「○○は、○○より、○個多い（少ない）」などの視点を明確にしてグラフを読み取らせる。

4 単元の目標

- (1) 簡単なことから整理して表やグラフに表したり，それらを読んだりすることができる。
- (2) 棒グラフや二次元の表の表し方を理解し，日常のさまざまな事象を棒グラフや二次元の表に表して調べようとする意欲をもつことができる。(4, 5年)
- (3) 簡単な事柄について，資料を調べたり，表に整理することができる。
- (4) 棒グラフを見て，表されている量の大小，相等，倍など関係を読み取ることができる。(4, 5年)
- (5) 棒グラフの表し方を理解し，資料を棒グラフに表して考察することができる。(4, 5年)
- (6) 観点を決めて資料を分類整理，それを二次元の表にまとめるよさを理解したり，資料の特徴を考察したりすることができる。(4, 5年)

5 単元指導計画 (全11時間, 1年は2時間扱い)

小単元	時	ねらい	学習課題	評価規準	評価方法
整理の仕方	1	簡単な事柄を観点を決めて分類して調べ，表に整理し，その表をよんで特徴をつかむことができる。	遊んでいる子どもの数を調べよう。	表にまとめると，人数の多い少ないがよく分かることに気づき，表を完成させている。(考)	プリント 発言
	2	表に表したものをグラフに表す活動を通して，資料の中の数量の大きさの違いを一目でとらえることができるというグラフの特徴を理解することができる。	グラフをかき，グラフから分かることを見つけよう。	表に表したものをグラフに表すことで，グラフの特徴が分かる。(知)	プリント 発言
	3 4	身近な事象をいくつかの項目に分けて，その数を「正」の字を使って調べることができる。また，その結果を表に整理することができる。(4, 5年)	自動車の台数を調べて，表にまとめよう。	手際よく調べるには「正」の字を用いるとよいことに気づき，資料を種類に分けて「正」の字を用いて調べている。(考)	プリント
棒グラフ	5	棒グラフのしくみを知り，それを読むことができる。また，棒グラフは数量の多い項目順に並びかえると，一層分かりやすくなることを知る。(4, 5年)	棒グラフから分かることを見つけよう。	棒グラフをよむことができる。(表)	発言
	6	棒の向きが横の棒グラフや時系列の順に表した棒グラフを読み取ることができる。(4, 5年)	横向きの棒グラフを見て答えよう	時系列をもとにした棒グラフの表し方が分かる。(知)	発言
	7 8	棒グラフの表し方を理解し，方眼紙を用いて資料を簡単な棒グラフに表すことができる。(4, 5年)	棒グラフのかき方を見つけよう。	資料を棒グラフに表すことができる。(表)	プリント
表	9 10	一次元の表から二次元の表が作れることを理解することができる。また，二次元の表から資料の傾向を読み取ったり，その表のよさをとらえることができる。(4, 5年)	3つの表を1つの表にまとめる方法を見つけよう。	資料を二次元の表にまとめることができる。(表)	プリント
	11	学習内容の適応習熟を図る。(4, 5年)	いろいろな問題に挑戦しよう。	グラフや表を読んだりかいたりすることができる。(表)	プリント